1）八王子歯科大学計画

The Plans for the Foundation of Hachioji Dental College

東京都　新藤恵久

Yoshihisa Sindo, *Tokyo*

歯科医の不足が深刻な社会問題になったのは，1970年ころからで，その対策が急務となった．

こうしたなかで，歯科大学の新設の機運が全国各地でおこった．

1972年，突然八王子市子安町のマンモス精神病院に歯科大学設立が浮上した．

こうして，この年4月いっぱいで病院は閉鎖するという方針が示された．八王子市の社会福祉所は「委託入院させている生活保護の患者をどうするか」と困惑した．

同事務所によると，現在，同病院の入院患者は500人，そのうち委託入院させている生活保護の精神病患者100人で，半分以上が身寄りのない人たちであった．

当時，八王子市内には23の精神病院があり，人口比病院数は多かったとはいえ，都の指定病院は永野病院など3つだけで，閉鎖が予定通り行われると，指定病院をふやす措置が緊急に必要とするが，100人も収容できる見込みはない．

病院の永野圭助院長は「将来，精神病院をまた建てる」といっているものの，衛生局は「将来の話では間に合わない」と困惑しきっていた．

病院側は閉鎖の方針をまだ正式には公表していない4月19日，患者の家族たちから問合わせが殺到し，また同病院玄関では，ハチ巻姿の看護人，看護師，従業員が「閉鎖反対」「職員解雇反対」と気勢をあげ，緊迫した状況となってきた．

八王子市側は，学園都市計画が始まったところで，この歯科大学設立計画は，一方では大賛成であった．

こうしたなかで，院長は22日，労組側に職員解雇など具体的閉鎖内容を説明するとし，病院の閉鎖は強行すると宣言した．

当時，同病院は，医師は14名いるものの，常勤医師は荒木院長ら4名，あとは日本大学付属病院医局からのパート勤務医であった．

こうしたことから，新設大学は日本大学の兄弟校であり，日本大学側は派遣教員もほぼ決まったという．後は院長と過従業員，患者との話し合いを待つばかりとなった．

ところが，突如，病院長の不正が発覚，逮捕され，これが原因で歯科大学新設計画は，霧散してしまった．